

# ANAホールディングス株式会社

## 2016年3月期 第1四半期 決算説明会

取締役 執行役員  
平子 裕志

2015年7月29日



©ANAHD2015

1

◎ 本日はお忙しい中、2016年3月期 第1四半期決算説明会にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。

◎ それでは、決算のご説明をさせていただきますので、最初にスライドの3ページをご覧ください。

## 目次

## 2016年3月期 第1四半期 決算

業績ハイライト	P. 3
事業ハイライト(航空事業)	P. 4
連結決算概要	
経営成績	P. 5
財政状態	P. 6
キャッシュフロー	P. 7
セグメント別実績	P. 8
航空事業	
収入・費用	P. 9
営業損益増減要因	P. 10
国内旅客事業	P. 11-12
国際旅客事業	P. 13-15
国内貨物事業	P. 16
国際貨物事業	P. 17-18
LCC事業	P. 19
航空事業以外のセグメント	P. 20
燃油・為替ヘッジの進捗状況	P. 21

## 補足資料

運用航空機数	P.24
国際旅客 方面別実績(構成比)	P.25
国際貨物 方面別実績(構成比)	P.26

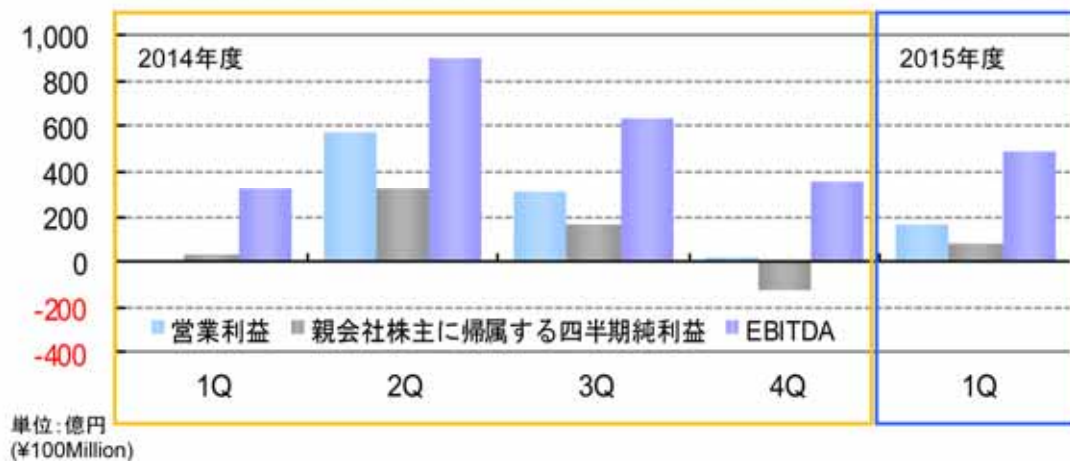
## 業績ハイライト

## 当第1四半期と前年度各四半期の業績比較

前年同期を大幅に上回る増益を達成

## 【第1四半期(連結)】

- 営業利益 : 167億円 (前年同期比 + 163億円)
- 親会社株主に帰属する  
四半期純利益 : 83億円 (同 + 48億円)
- EBITDA : 494億円 (同 + 166億円)



©ANAHD2015

3

◎ 業績ハイライトです。

◎ 当第1四半期の営業利益は、前年同期から**163億円**増加して、**167億円**となりました。  
純利益は、同**48億円**増加して、**83億円**となりました。

◎ EBITDAは、同**166億円**増加して、**494億円**となっています。

◎ 今年度計画として、過去最高の営業利益を目指すにあたり、  
好調なスタートを切ることができました。

◎ **4ページ**をご覧ください。

## 事業ハイライト(航空事業)

旅客事業を中心に増収を達成、費用の抑制にも努めて、大幅な増益に結実

## 航空事業・収入



## 航空事業・費用

(%表記は全て前年比)



## 国内旅客



## 国際旅客



## 燃油費・燃料税



©ANAHD2015

4

◎ 前のページでご説明した増益には、主力の航空事業が大きく貢献しています。

◎ 国内、国際旅客事業において、

それぞれ、収益性指標であるユニットレベニューの向上を中心に増収を果たした一方で、燃油費については、約100億円の減少となりました。

◎ 5ページをご覧ください。

## 連結決算概要

経営成績		単位: 億円 (¥100Million)	前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年差 Difference
売上高	Operating Revenues		3,868	4,138	+ 270
営業費用	Operating Expenses		3,864	3,971	+ 106
営業利益	Operating Income		3	167	+ 163
営業利益率	Op. Margin (%)		0.1	4.0	+ 4.0
営業外損益	Non-Op. Income/Losses		△ 28	△ 8	+ 20
経常利益	Ordinary Income		△ 25	159	+ 184
特別損益	Extraordinary Income/Losses		100	△ 0	△ 100
親会社株主に帰属する 四半期純利益	Net Income Attributable to Owners of ANA HOLDINGS INC.		34	83	+ 48
四半期純利益	Net Income Before Non-Controlling Interests		37	84	+ 47
その他包括利益	Other Comprehensive Income		48	207	+ 158
包括利益	Comprehensive Income		86	291	+ 205

©ANAHD2015

5

◎ 経営成績の概要です。

◎ 売上高は、前年同期から270億円、前年比 7パーセント増加して、4,138億円となり、第1四半期として過去最高となりました。

営業費用は、同106億円増加して、3,971億円となりました。

◎ その結果、営業利益は167億円、経常利益は159億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は83億円となり、それぞれ前年水準を上回る、大幅な増収増益決算となりました。

◎ 6ページをご覧ください。

## 連結決算概要

財政状態		単位: 億円 (¥100Million)	前年度期末	第1四半期末	前年度期末差
			Mar 31, 2015	Jun 30, 2015	Difference
総資産	Assets		23,024	22,831	△ 192
自己資本	Shareholders' Equity		7,982	8,137	+ 154
自己資本比率(%)	Ratio of Shareholders' Equity (%)		34.7	35.6	+ 1.0
有利子負債残高	Interest Bearing Debts		8,198	7,972	△ 226
D/Eレシオ(倍)*	Debt/Equity Ratio (times)		1.0	1.0	△ 0.0
純有利子負債残高**	Net Interest Bearing Debts		4,972	4,919	△ 52

\* オフバランスリース債務額 882億円(前年度期末 963億円)を含むD/Eレシオは1.1倍(前年度期末1.1倍)

\*\* 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - (流動資産(現金及び預金+有価証券))

◎ 財政状態です。

◎ 総資産は、前年度期末より192億円減少して、2兆2,831億円、  
自己資本は、同154億円増加して、8,137億円となり、  
自己資本比率は、35.6パーセントとなりました。

◎ 有利子負債は、7,972億円となっており、  
デット・エクイティ・レシオは、1.0倍となっています。

◎ 7ページをご覧ください。

## 連結決算概要

## キャッシュフロー

単位:億円  
(¥100Million)

		前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年差 Difference
営業キャッシュフロー	Cash Flow from Operating Activities	490	776	+ 285
投資キャッシュフロー	Cash Flow from Investing Activities	△ 297	90	+ 388
財務キャッシュフロー	Cash Flow from Financing Activities	113	△ 397	△ 511
現金及び現金同等物の増減額	Net Increase/Decrease in Cash and Cash Equivalents	305	469	+ 164
現金及び現金同等物の期首残高	Cash and Cash Equivalents at the beginning of the year	2,409	2,089	} + 469
現金及び現金同等物の期末残高	Cash and Cash Equivalents at the end of the current period	2,730	2,559	
減価償却費	Depreciation and Amortization	324	326	+ 2
設備投資額(固定資産のみ)	Capital Expenditures	529	589	+ 59
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く)	Substantial Free Cash Flow (excluding periodic/negotiable deposits of more than 3 months)	△ 17	223	+ 240
EBITDA*	EBITDA	327	494	+ 166
EBITDAマージン(%)	EBITDA Margin (%)	8.5	11.9	+ 3.5

\* EBITDA:営業利益+減価償却費

© ANAHD2015

7

◎ キャッシュフローです。

◎ 営業キャッシュフローは、776億円の収入、  
投資キャッシュフローは、90億円の収入、  
財務キャッシュフローは、397億円の支出となりました。

◎ 設備投資額は、前年同期から59億円増加して、589億円となりましたが、  
3ヶ月超の定期・譲渡性預金の資金移動を除いた投資キャッシュフローから算出する、  
実質フリーキャッシュフローは、下から3段目に記載の通り、223億円となっています。

◎ 8ページをご覧ください。

## 連結決算概要

## セグメント別実績

単位: 億円  
(¥100Million)

		前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年差 Difference	
売上高 Revenues	航空事業	Air Transportation	3,351	3,571	+ 220
	航空関連事業	Airline Related	536	578	+ 42
	旅行事業	Travel Services	367	363	△ 4
	商社事業	Trade and Retail	300	352	+ 52
	報告セグメント計	Total for Reporting Segments	4,555	4,865	+ 310
	その他	Others	75	79	+ 4
	調整額	Adjustment	△ 762	△ 806	△ 44
	合計(連結)	Total	3,868	4,138	+ 270
営業利益 Operating Income	航空事業	Air Transportation	△ 11	152	+ 164
	航空関連事業	Airline Related	27	19	△ 8
	旅行事業	Travel Services	7	5	△ 2
	商社事業	Trade and Retail	5	14	+ 8
	報告セグメント計	Total for Reporting Segments	28	191	+ 162
	その他	Others	1	3	+ 1
	調整額	Adjustment	△ 27	△ 27	△ 0
	合計(連結)	Total	3	167	+ 163

©ANAHD2015

8

◎ セグメント別の実績です。

◎ 航空事業に加えて、商社事業も増収増益となりました。

空港免税店の売上高が大きく増加するなど、  
訪日需要の拡大が、商社事業にも追い風となっています。

◎ 続きまして、航空事業について、詳細をご説明しますので、10ページをご覧ください。

## 航空事業

収入・費用		単位: 億円 (¥100Million)	前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年差 Difference
売上高 Operating Revenues	国内線旅客	Domestic Passenger	1,483	1,523	+ 39
	国際線旅客	International Passenger	1,092	1,193	+ 100
	貨物郵便	Cargo and Mail	392	387	△ 5
	その他	Others	382	467	+ 84
	合計	Total	3,351	3,571	+ 220
営業費用 Operating Expenses	燃油費・燃料税	Fuel and Fuel Tax	899	799	△ 99
	空港使用料	Landing and Navigation Fees	278	281	+ 2
	航空機材賃借費	Aircraft Leasing Fees	220	227	+ 6
	減価償却費	Depreciation and Amortization	310	310	+ 0
	整備部品・外注費	Aircraft Maintenance	198	233	+ 35
	人件費	Personnel	415	418	+ 3
	販売費	Sales Commission and Promotion	236	266	+ 30
	外部委託費	Contracts	410	444	+ 34
	その他	Others	394	437	+ 42
	合計	Total	3,363	3,419	+ 55
営業利益	営業利益	Operating Income	△ 11	152	+ 164
	EBITDA*	EBITDA	298	463	+ 164
	EBITDAマージン	EBITDA Margin (%)	8.9	13.0	+ 4.1

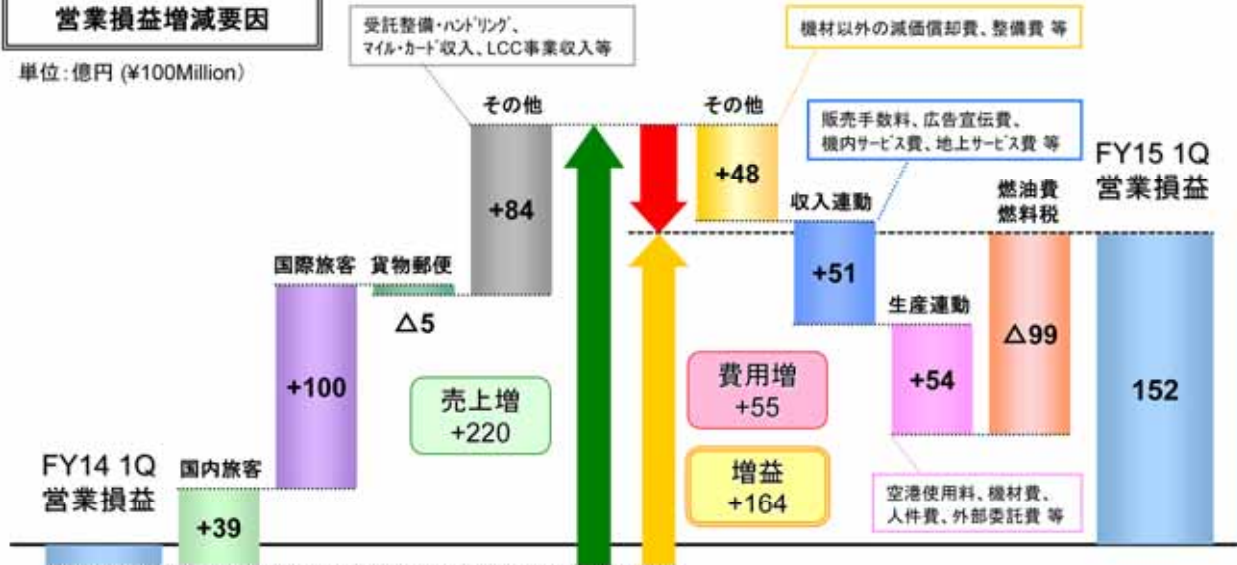
©ANAHD2015

\* EBITDA: 営業利益 + 減価償却費

## 航空事業

### 営業損益増減要因

単位: 億円 (¥100Million)



△11

コスト構造改革	年度計画	1Q実績	進捗率
生産性向上	80	20	25%
営業改革	10	5	50%
業務改革等	160	35	22%
計	250	60	24%

©ANAHD2015

10

◎ 航空事業における営業損益の、前年同期比較です。

◎ 売上高は、220億円の増加となりました。

国内旅客、国際旅客の増収に加え、

その他の項目に含まれるLCC事業の収入も、前年を大きく上回りました。

◎ 営業費用は、55億円の増加となりました。

収入連動費用や生産連動費用などが増加したなかで、

燃油費については、原油市況の下落により、前年から大きく減少しました。

◎ 以上により、営業損益は前年同期から164億円増加して、152億円となりました。

◎ なお、コスト構造改革については、計画通りに進捗しており、

当第1四半期において、60億円の削減を達成しています。

◎ 次に12ページをご覧ください。

## 航空事業

## 国内旅客事業(実績)

(ハニラエア含まず)

		前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年比 % YY
座席キロ(百万)	Available Seat Km (million)	14,839	14,464	△ 2.5
旅客キロ(百万)	Revenue Passenger Km (million)	8,788	8,851	+ 0.7
旅客数(千人)	Passengers (thousands)	9,970	9,911	△ 0.6
座席利用率(%)	Load Factor (%)	59.2	61.2	+ 2.0*
旅客収入(億円)	Passenger Revenues (¥100million)	1,483	1,523	+ 2.7
ユニットレベニュー(円)	Unit Revenue (¥/ASK)	10.0	10.5	+ 5.3
イールド(円)	Yield (¥/RPK)	16.9	17.2	+ 2.0
単価(円)	Unit Price (¥/Passenger)	14,881	15,374	+ 3.3

\* 座席利用率のみ前年差

## 航空事業

## 国内旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

## 第1四半期 収入増減要因

✓ 座席キロを抑制する中、運賃政策による増収の達成



©ANAHD2015

## 四半期別 座席キロ・収入・座席利用率推移

✓ 需給適合の推進により、座席利用率が向上



12

◎ 国内旅客の状況です。

◎ 左の図は、第1四半期の増収額、39億円の要因分析です。

◎ 旅客数要因では、10億円の減収となりました。

◎ 一方、単価要因では、昨年7月に実施した普通運賃改定による効果が継続していること、割引運賃の柔軟な設定が効果を発揮したことなどによって、50億円の増収となりました。

◎ 右の図でご確認いただける通り、需要動向を見極めながら、生産量を抑制的にコントロールすることによって、座席利用率は着実に向上しており、当第1四半期の実績は、前年同期から2ポイント上昇しました。

◎ 14ページをご覧ください。

## 航空事業

## 国際旅客事業(実績)

(ハニラエア含まず)

		前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年比 % YY
座席キロ(百万)	Available Seat Km (million)	12,273	12,601	+ 2.7
旅客キロ(百万)	Revenue Passenger Km (million)	8,471	9,194	+ 8.5
旅客数(千人)	Passengers (thousands)	1,689	1,910	+ 13.1
座席利用率(%)	Load Factor (%)	69.0	73.0	+ 3.9*
旅客収入(億円)	Passenger Revenues (¥100million)	1,092	1,193	+ 9.2
ユニットレベニュー(円)	Unit Revenue (¥/ASK)	8.9	9.5	+ 6.4
イールド(円)	Yield (¥/RPK)	12.9	13.0	+ 0.7
単価(円)	Unit Price (¥/Passenger)	64,663	62,481	△ 3.4

\* 座席利用率のみ前年差

## 航空事業

## 国際旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

## 第1四半期 収入増減要因

✓ 幅広く需要を取り込み、大幅な増収を実現

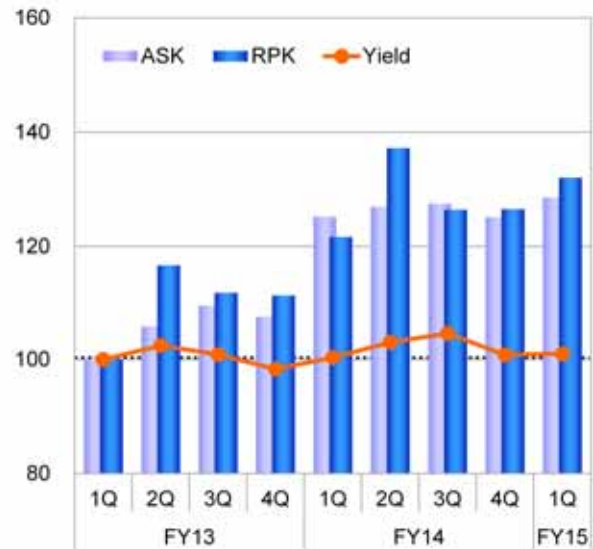


©ANAHD2015

## 四半期別 座席キロ・旅客キロ・イールド推移

✓ 燃油サーチャージ収入が減少する中、イールド水準を維持

指数: FY13 1Q=100



14

◎ 国際旅客の状況です。左の図をご覧ください。

◎ 旅客数要因では、日本発の業務渡航需要が堅調に推移したことに加え、訪日需要や三国間需要を着実に取り込んだことで、140億円の増収となりました。

◎ 一方、単価要因では、燃油サーチャージ収入の減少や、客体・路線構成の変化による影響があるなかでも、良好な需要動向を背景に、イールドマネジメントを徹底することで、40億円の減収に留めました。

◎ 旅客数の拡大について補足させていただきます。15ページをご覧ください。

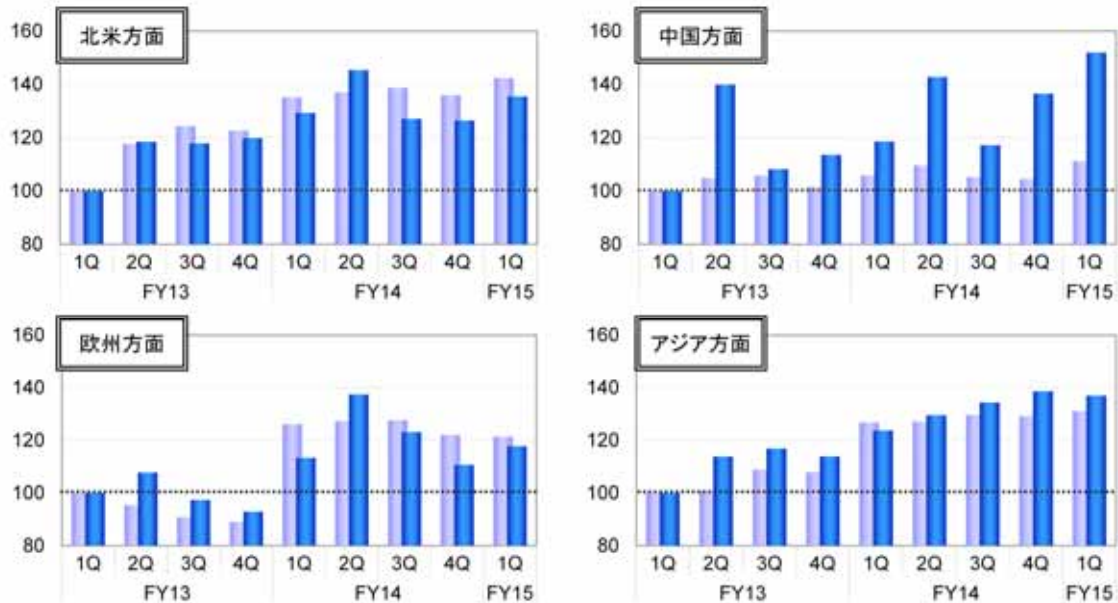
## 航空事業

## 国際旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

## 四半期別 方面別 輸送実績推移

(指数 FY13 1Q=100) ASK RPK



©ANAHD2015

15

◎ 方面別の座席キロ、旅客キロの推移です。

各方面において、生産量に対し、順調に需要の摘み取りを行っています。

◎ 右上の中国方面のグラフをご覧ください。

当第1四半期の実績として、紺色でお示ししている旅客キロが、前年から大きく増加していることを、ご確認ください。

旺盛な訪日需要が後押しとなり、海外販売が大幅に拡大しました。

訪日旅客の取り込みについては、中国方面のみならず、全方面において、前年比で二桁以上の増加となっています。

◎ また、デュアルハブ・ネットワーク戦略のもと、

6月より新規開設したヒューストン線、増便したシンガポール線も合わせて、成田空港を経由するアジアー北米間の需要獲得を推進しています。

◎ 昨年春から拡大した羽田発着路線を含めて、当社グループのネットワークが、

国内のみならず、海外マーケットにも、着実に浸透していると受け止めています。

◎ 18ページをご覧ください。

## 航空事業

## 国内貨物事業(実績)

		前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年比 % YY
有効貨物トンキロ(百万)	Available Ton Km (million)	462	441	△ 4.6
有償貨物トンキロ(百万)	Revenue Ton Km (million)	111	106	△ 5.0
貨物輸送重量(千トン)	Revenue Ton (thousand tons)	110	104	△ 5.1
貨物重量利用率(%)	Load Factor (%)	24.2	24.1	△ 0.1*
貨物収入(億円)	Cargo Revenues (¥100million)	76	72	△ 5.4
ユニットレベニュー(円)	Unit Revenue (¥/ATK)	16.6	16.5	△ 0.8
重量単価(円/kg)	Unit Price (¥/kg)	70	69	△ 0.3

\* 貨物重量利用率のみ前年差

## 航空事業

## 国際貨物事業(実績)

		前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年比 % YY
国際貨物 International Cargo	有効貨物トンキロ(百万) Available Ton Km (million)	1,343	1,420	+ 5.7
	有償貨物トンキロ(百万) Revenue Ton Km (million)	891	828	△ 7.1
	貨物輸送重量(千トン) Revenue Ton (thousand tons)	212	191	△ 9.8
	貨物重量利用率(%) Load Factor (%)	66.4	58.3	△ 8.0*
	貨物収入(億円) Cargo Revenues (¥100million)	293	288	△ 1.6
	ユニットレベニュー(円) Unit Revenue (¥/ATK)	21.8	20.3	△ 6.9
	重量単価(円/kg) Unit Price (¥/kg)	138	151	+ 9.1
【参考】 上記内数 国際 フレイター International Freighter	有効貨物トンキロ(百万) Available Ton Km (million)	296	311	+ 4.9
	有償貨物トンキロ(百万) Revenue Ton Km (million)	186	170	△ 8.5
	貨物輸送重量(千トン) Revenue Ton (thousand tons)	96	86	△ 10.5
	貨物重量利用率(%) Load Factor (%)	62.9	54.9	△ 8.0*
	貨物収入(億円) Cargo Revenues (¥100million)	111	104	△ 5.8
	ユニットレベニュー(円) Unit Revenue (¥/ATK)	37.6	33.7	△ 10.2
	重量単価(円/kg) Unit Price (¥/kg)	116	122	+ 5.2

©ANAHD2015

\* 貨物重量利用率のみ前年差

17

## 航空事業

## 国際貨物事業(事業動向)

## 第1四半期 収入増減要因

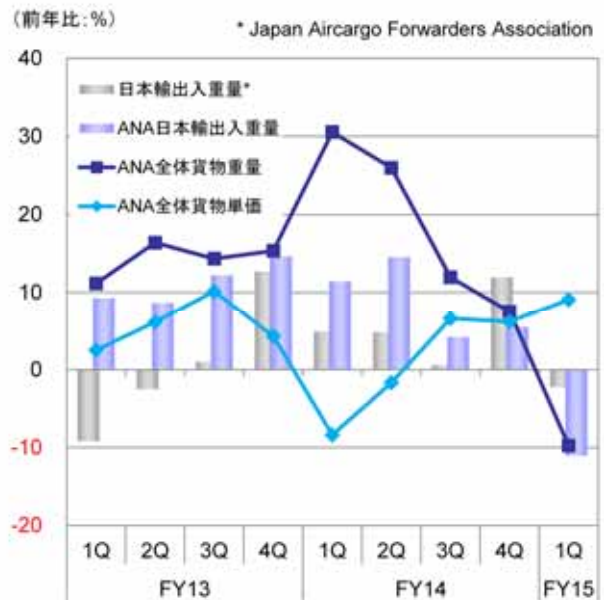
✓重量要因により、収入は前年を下回る



©ANAHD2015

## 四半期別 輸送実績・単価推移

✓円安効果に加え、一部運賃の改定により単価は向上



18

◎ 国際貨物の状況です。左の図をご覧ください。

◎ 重量要因では、日本発着、三国間貨物ともに取扱重量が前年を下回り、  
20億円の減収となりました。

◎ 一方、単価要因では、燃油サーチャージ収入が減少するなかでも、  
海外販売における円安の効果や、国内販売での運賃改定によって、  
15億円の増収となりました。

◎ 19ページをご覧ください。

## 航空事業

## LCC事業(実績)

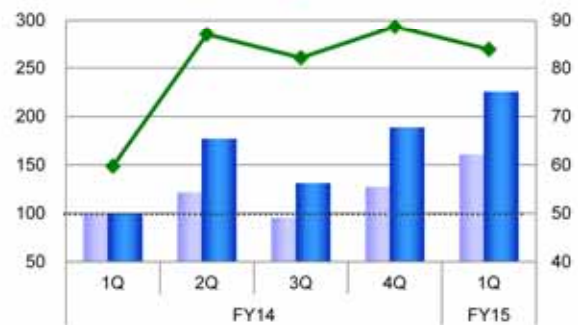
国内線・国際線合計		前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年比 % YY
座席キロ(百万)	Available Seat Km (million)	495	796	+ 60.8
旅客キロ(百万)	Revenue Passenger Km (million)	296	668	+ 125.6
旅客数(千人)	Passengers (thousands)	198	392	+ 98.0
座席利用率(%)	Load Factor (%)	59.7	83.8	+ 24.1*

\*座席利用率のみ前年差

運用航空機数	Airbus A320-200: 8機 (2015年6月末時点)
--------	-------------------------------------

→ 成田空港 第3ターミナルへ移転(2015/4/8~)

左軸(指数 FY14 1Q=100) ASK RPK 右軸(単位:%) 座席利用率



©ANAHD2015

19

◎ バニラエアの実績です。

◎ 第1四半期の座席利用率は、前年から大幅に改善して、83.8パーセントとなりました。

今年度の黒字化必達に向け、順調な滑り出しとなっています。

◎ 最後に、20ページをご覧ください。

## 航空事業以外のセグメント

## セグメント別実績

単位: 億円 (¥100Million)		航空関連事業			旅行事業		
		前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年差 Difference	前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年差 Difference
売上高	Revenues	536	578	+ 42	367	363	△ 4
営業利益	Op. Income	27	19	△ 8	7	5	△ 2
減価償却費	Depreciation and Amortization	10	12	+ 2	0	0	+ 0
EBITDA*	EBITDA	38	32	△ 6	7	5	△ 2
EBITDAマージン	EBITDA Margin (%)	7.2	5.6	△ 1.6	2.1	1.6	△ 0.6

		商社事業			その他		
		前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年差 Difference	前年同期 1Q/FY14	第1四半期 1Q/FY15	前年差 Difference
売上高	Revenues	300	352	+ 52	75	79	+ 4
営業利益	Op. Income	5	14	+ 8	1	3	+ 1
減価償却費	Depreciation and Amortization	2	2	+ 0	0	0	△ 0
EBITDA*	EBITDA	7	16	+ 8	2	4	+ 1
EBITDAマージン	EBITDA Margin (%)	2.5	4.6	+ 2.2	3.1	5.1	+ 2.0

\* EBITDA : 営業利益 + 減価償却費

©ANAHD2015

20

◎ 本ページには、航空事業以外の各報告セグメントの状況をお示していますので、  
ご参照ください。

◎ 私からのご説明は以上です。  
ご清聴ありがとうございました。

## 燃油・為替ヘッジの進捗状況

### 燃油

《2015年度業績予想前提値》

ドバイ原油: US\$67/bbl、シンガポールケロシン: US\$85/bbl

(下記感応度はヘッジ効果を含まず)



### 為替

《2015年度業績予想前提値》 US\$:120円/\$



# Intentionally Blank

# 補足資料



## 補足資料

運用航空機数	前年度期末 Mar 31, 2015	第1四半期末 Jun 30, 2015	増減 Change	保有機数 Owned	リース機数 Leased
Boeing 777-300ER	20	22	+ 2	19	3
Boeing 777-300	7	7	-	7	0
Boeing 777-200ER	12	12	-	6	6
Boeing 777-200	16	16	-	14	2
Boeing 787-9	2	4	+ 2	4	0
Boeing 787-8	32	33	+ 1	31	2
Boeing 767-300ER	26	25	△ 1	10	15
Boeing 767-300	16	16	-	16	0
Boeing 767-300F	3	3	-	0	3
Boeing 767-300BCF	7	8	+ 1	8	0
Airbus A320-200	20	20	-	12	8
Boeing 737-800	31	31	-	24	7
Boeing 737-700ER	2	2	-	2	0
Boeing 737-700	10	10	-	7	3
Boeing 737-500	17	18	+ 1	18	0
Bombardier DHC-8-400 (Q400)	21	21	-	16	5
<b>合計 Total</b>	<b>242</b>	<b>248</b>	<b>+ 6</b>	<b>194</b>	<b>54</b>

パニラエア運用 A320-200 を含む(当第1四半期末 8機、前年度期末 8機)  
グループ外にリースしている機数を除く(当第1四半期末 13機、前年度期末 12機)

## 補足資料

## 国際旅客 方面別実績(構成比)

		第1四半期構成比 1Q/FY15 Composition	前年差 Difference
旅客収入 Revenues	北米 North America	32.2	△ 1.1
	欧州 Europe	19.4	△ 1.3
	中国 China	17.2	+ 2.5
	アジア Asia	27.9	+ 0.2
	リゾート Resort	3.2	△ 0.3
座席キロ ASK	北米 North America	35.9	+ 0.9
	欧州 Europe	19.2	△ 1.3
	中国 China	11.5	+ 0.3
	アジア Asia	29.6	+ 0.2
	リゾート Resort	3.8	△ 0.1
旅客キロ RPK	北米 North America	35.5	△ 1.3
	欧州 Europe	18.3	△ 0.8
	中国 China	11.4	+ 1.7
	アジア Asia	30.4	+ 0.6
	リゾート Resort	4.4	△ 0.3

(バニラエア含まず)

## 補足資料

## 国際貨物 方面別実績(構成比)

		第1四半期構成比 1Q/FY15 Composition	前年差 Difference
貨物収入 Revenues	北米 North America	25.9	+ 4.4
	欧州 Europe	13.5	△ 1.5
	中国 China	32.6	△ 1.9
	アジア Asia	22.1	+ 0.2
	その他 Others	5.9	△ 1.3
有効貨物 トンキロ ATK	北米 North America	35.7	+ 0.5
	欧州 Europe	19.0	△ 2.1
	中国 China	17.3	+ 0.9
	アジア Asia	23.9	+ 0.5
	その他 Others	4.2	+ 0.2
有償貨物 トンキロ RTK	北米 North America	39.7	+ 0.9
	欧州 Europe	22.6	△ 1.1
	中国 China	12.5	△ 1.1
	アジア Asia	21.0	+ 1.3
	その他 Others	4.2	△ 0.0

## ANAグループが目指すもの

## グループ経営理念

安心と信頼を基礎に  
世界をつなぐ心の翼で  
夢にあふれる未来に貢献します

## グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である  
私たちはお互いの理解と信頼のもと  
確かなしくみで安全を高めていきます  
私たちは一人ひとりの責任ある  
誠実な行動により安全を追求します

## グループ経営ビジョン

ANAグループは、  
お客様満足と価値創造で  
世界のリーディングエアライングループを目指します

## 免責事項

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社の主要事業である航空運送事業には、空港使用料、航空機燃料料等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

ご清聴ありがとうございました。

*Thank you.*

当資料はホームページでもご覧いただけます。

*This material is available on our website.*

<http://www.anahd.co.jp>

[日本語] 株主・投資家情報 → IR資料室 → 決算説明会資料

ANAホールディングス株式会社 財務企画・IR部

電話番号 03(6735)1030(代) メールアドレス [ir@anahd.co.jp](mailto:ir@anahd.co.jp)